

鈴峰中だより

令和7年 9月 8日

第14号

校訓『明るく 美しく 楽しく』

<http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/jhreiho>

鈴鹿市立鈴峰中学校

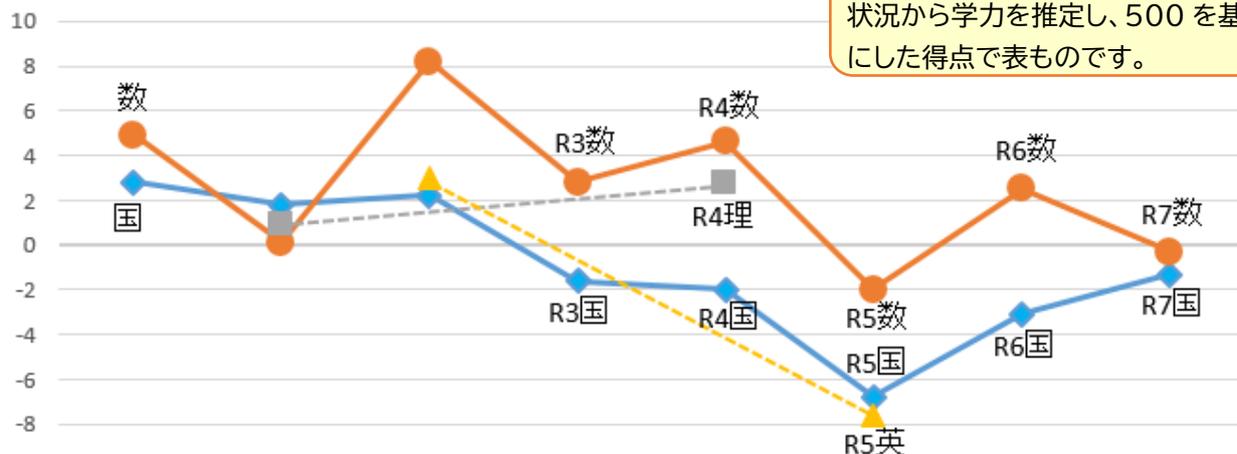
◇全国学力・学習状況調査の結果と分析◇

令和7年度の全国学力・学習状況調査(4月16・17日実施)の結果等をお知らせいたします。

1. 学力調査の結果：平均正答率(%) ※理科はIRT方式による算出結果

	国語	数学	理科
鈴峰中学校			
鈴鹿市(公立)	53	45	49.7
三重県(公立)	53	47	49.8
全国(公立)	54.3	48.3	50.3
全国比			

2. 経年変化



3. 家庭学習(生徒質問紙より)

○学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む) 【1時間以上】の回答割合

鈴峰中学校	鈴鹿市(公立)	三重県(公立)	全国(公立)	全国比
49.4	—	60.5	61.6	-12.2

○土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む) 【1時間以上】の回答割合

鈴峰中学校	鈴鹿市(公立)	三重県(公立)	全国(公立)	全国比
44.4	—	48.8	57.9	-13.5

※昨年度と同様、家庭学習を全くしないわけではないが、30分未満の生徒の割合が多い。

4. 今、求められる力（生徒質問紙より肯定的回答の割合〔%〕） ※太字は全国平均より上

	質問項目	鈴峰中	全国
主体的な学び	(32) 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	88.6	77.7
対話的な学び	(35) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができる	89.9	84.7
深い学び	(37) 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う	79.7	74.8
個別最適な学び	(34) 授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた	84.8	79.3
協働的な学び	(39) 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	95.0	91.9
学びのアウトプット	(33) 授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	74.6	70.6

5. 非認知能力（生徒質問紙より否定的回答の割合〔%〕） ※太字は全国平均より下

	質問項目	鈴峰中	全国
やりぬく力	(16) 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	17.7	22.0
自制心	(42) 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	10.2	22.0
自己肯定感	(5) 自分には、よいところがあると思う	10.2	13.7
社会性	(8) 人が困っているときは、進んで助けている	7.6	8.7

6. 成果と課題（学力調査および生徒質問紙より）

成果	課題
<p>○問題形式別に見ると、国語・数学・理科について「記述式」の問題の正答率が全国平均を上回った。（※国語と理科は、全ての記述式問題について全国平均を上回った。）</p> <p>○「今、求められる力」については、「主体的な学び」をはじめ、全ての項目で全国平均を上回った。この結果は、本校が目指す「自ら学ぶことのできる生徒の育成」の成果と言える。</p> <p>○「非認知能力」については、本市が重点的に取り組む4つの項目において、全て全国平均（否定的回答）を下回った。</p>	<p>▲観点別に見ると、国語・数学ともに「知識・技能」の問題の正答率が全国平均を下回った。基本的な学習事項（漢字や四則計算など）の理解・定着に課題が見られる。</p> <p>▲国語・数学ともに、全ての問題において「無回答」が一定の割合見られる。わずかではあるが、全国平均を上回っている。</p> <p>▲家庭学習を1時間以上行っている生徒の割合が全国平均を下回っている。また、30分未満の生徒の割合が多く、宿題等の最低限やるべきことだけになっていると考えられる。</p>

7. 課題改善に向けた具体的な取り組み

- ◎授業の中で、既習事項を確認する場面を設定したり、定期的な単元テストや小テスト等を実施したりするなど、基本的な学習事項の定着を図るとともに、家庭学習の内容を充実させることで、各教科の基礎・基本の定着を図る。
- ◎家庭学習においても、生徒が主体的に取り組めるよう、「家庭学習の手引き」や「定期テストの学習計画表」などを活用して、家庭学習の取り組み方等、指導していく。
- ◎今後も「自ら学ぶことのできる生徒の育成」を目指し、日々の授業づくりや授業改善に取り組むことで、「今、求められる力」や「非認知能力」の伸長を図る。

学力調査の結果(個票)につきましては、後日、生徒を通じて配付させていただきます。